

もっと知りたい
ふるさと

48

船山神社 (旧三島大明神)

鑄物師屋区に鎮座し、崇敬厚い「船山神社」(明治11年三島大明神を船山神社に改称)は、古老の口碑等によると天文10年(1541)船山守護所跡と思われる地点に「三島大明神」として建立されたという。

また、明治36年に報告された資料では「草創明カナラズト雖モ御本殿ハ元禄年中御葺換ノ事アリ、境内社木槻ノ大木周囲ガ丈余ノモノ立チ居リシモ寛文中風雨ノ為メ朽損シテ数本打折レタリシモ記録当村旧家ニ保存セリ殊ニ往古

除地高一石六斗二合五勺ヲ祭祀料ニ給典セラレシ等古社ナルヲ證スルニ足レリト雖モ社家中世変遷セシ為メ其記録ノ如キ散蝕正ヲ尽スヲ得ズ、殊ニ寛保度水災(寛保2年の戌の満水)ノ為メ益々其詳蹟ヲ失フニ至レリ今ハ尽ク口碑ニ徵ヲ求ムルノミ」とあり、この報告書によっても寛文年代の1660年以前に現在の地に船山神社が鎮座していたことは確かである。

「神」を祭神としている。このため関係する村々は「建御名方命」を祭神とする旧名諏訪社が多い。

なぜか周辺の地域と異なり当船山神社は伊豆の三島大社の祭神である「大山祇命」を祭神としている。

植生地区他近郷の村々は江戸時代初期の慶長7年(1602)に実施された北信四郡の総検地により初めて村落として認められたもので、以前は船山郷の一集落として存在していた。

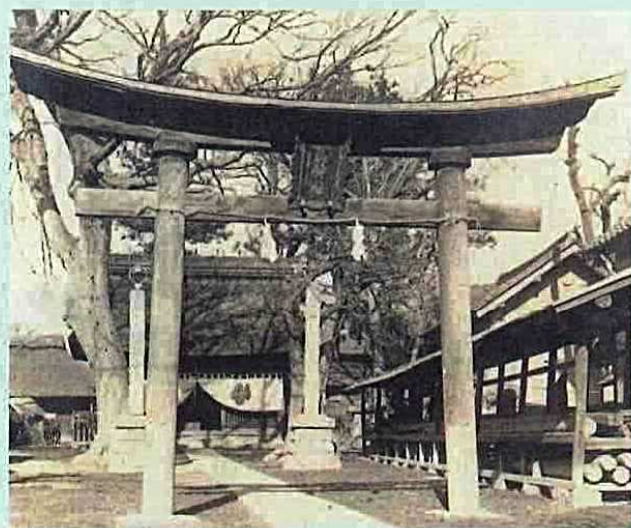
船山郷に守護所が設置されていた時代は鎌倉幕府の支配下に有り、当時の幕府は伊豆の三島大社を厚く信仰していたことから守護所の守り神として三島社を招致して居たという古老の口碑も有り、この守護神が旧名三島大明神として今に伝わって来たのではないかと推察される。

栗佐神社は船山郷を含む近郷の総社として「延喜式」神名帳に記載されている古くからの名社で、「建御名方命」事代主命、少彦名

当船山神社の祭典の祭事に於いて昭和初期までは「若者連」という団体があり、祭りに対して幟立、社内の飾り付け等を行い、大正時代まで参拝者を楽しませた。大仕掛けの飾り物も行われ、当時としては飾り物で有名な穂高神社をしのぐものがあつたと言われている。残念ながら神社の火災で飾り物の人形の頭等が焼失してしまい、当時の痕跡は言い伝えのみとなつてしま

02)に実施された北信四郡の総検地により初めて村落として認められたもので、以前は船山郷の一集落として存在していた。

神社の境内には秋葉社(火之迦具土神)・保食神・天神宮(安政5年の記録にあり)・養蚕社(明治21年建立、昭和11年改築)の末社がそれぞれ祀られている。



焼失前の拜殿



左から 天神宮 養蚕社 秋葉社 保食神

くからの名社で、「建御名方命」事代主命、少彦名

以前の社殿は昭和31年に鑄物師屋の大火災により焼失してしまい、現在の社殿は昭和34年に建立された社である。火災前は榎・槐・榎等周囲4隣近い大木があり、槐は子供が2〜3人入れるような空洞のある大木であった。

榎・槐は火災後伐採されてしまい現在は明治初期に植樹されたといわれる銀杏のみで、大木に囲まれた風格ある神社の面影は残念ながら止めていない。

参考資料 区誌『ふなやま』、船山神社保存資料 鑄物師屋 宮坂尚敏